

出題分析		
試験時間 90分	配点 100点	大問数 4題
分量（昨年比較）〔減少 <span style="border: 1px solid black;">同程度</span> 増加〕		難易度変化（昨年比較）〔易化 同程度 <span style="border: 1px solid black;">難化</span> 〕
<p><b>【概評】</b></p> <p>大問数4題（うち400字の論述問題1題）で、出題範囲は原始から戦後まで幅広く問われた。すべて記述問題であり、空欄補充問題などの短答記述問題はケアレスミスなく確実に得点したい。概ね教科書レベルであるため、教科書を中心に理解度を深めた受験生にとっては有利であったと思われるが、400字の論述問題でいかに加点要素に留意した解答を論述できるかが、重要なポイントであった。ただ、今年度の400字論述は指定語句の一部で使い方に迷うなど、ややまとめにくい問題であったことから、昨年度と比較すればやや難化したと言える。</p>		

設問別講評			
問題	出題分野・テーマ	設問内容・解答のポイント	難易度
1	原始時代の人々の生活	空欄補充問題と短文の論述問題が並んだ。問2の高坏の用途や、問3の須恵器の特徴は標準レベルと言える。縄文時代に定住生活が可能となった理由を問うた問4は、食生活の変化をヒントに解答を導き出したい。	標準
2	中世の史料問題	3つの史料の中には初見のものもあるだろうが、史料中に明記されている地名や年号などで、まず何の史料なのかを把握したい。問5では下剋上の事例が問われたが、その事例は限られているだけに想起できたと思われる。問9では史料の読解が求められた。	標準
3	近世における男性と女性の地位や分業	「ジェンダー」といった時事的で、且つ受験生の社会的関心を問うた問題と言える。指定語句から記すべき内容を的確に判断したいが、中には使い方に迷うものもあっただろう。特に「美人画」「機織り」をどのように論述に盛り込むかで、大きな得点差が生じたと思われる。	やや難

設問別講評			
4	20 世紀日本の経済発展と生活様式の変化	標準レベルの問題が並んだ。問 2 の大戦景気もたらされた理由や、問 4 の日米新安全保障条約で新たに明記された内容などの設問は、論述問題の定番と言える。問 5 は高度経済成長のひずみとして、高度経済成長期の農村に関する変化について問われた。	標準

#### 合格のための学習法

新潟大学の日本史は論述問題を中心とする出題形式であるため、通史学習の中で、文章を書く訓練を繰り返し行っていきたい。その学習の軸となるのは、出題内容や難易度から教科書であることは言うまでもない。歴史的な出来事の背景や時期、因果関係などを常に意識しながら学習にあたっていくことが重要である。